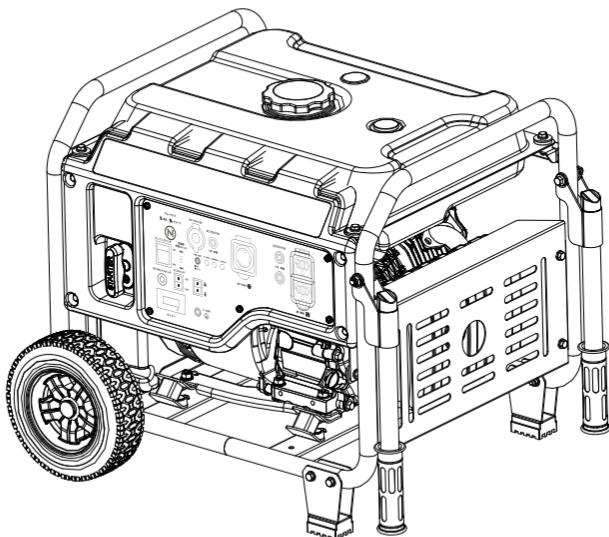


# EENOUR

## (イーノウ)



**インバーター発電機 DK4000iODF  
取扱説明書**

# はじめに

このたびはEENOURインバーター発電機DK4000iODFをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

## 安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

 危 険	人が死亡または重傷などを負う可能性が高いと考えられる内容です。
 警 告	人が死亡、または重傷などを負う可能性が想定される内容です。
 注 意	人が損傷を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容です。
 禁 止	取扱においてその行為を禁止します。
 指 示	指示に基づく行為を強制します。

この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

# 目次

安全にお使いいただくために	01～03
各部の名称と取り扱い	04～10
・各部の名称	04
・コントロールパネル部	05
・各部の取り扱い	06～10
運転前の点検	11～12
・エンジンオイルの給油	11
・エンジンオイルの量の確認	11～12
・本機周辺の点検	12
発電機のかけ方(ガソリンの場合)	13～16
・燃料の給油	13～14
・エンジンの起動	15
・エンジンの停止	16
発電機のかけ方(LPガスの場合)	17～20
・ガス供給ボックスとの接続	17
・LPガス容器との接続	18
・エンジンの起動	19
・エンジンの停止	20
発電機の使用方	21～23
・使用環境	21
・配線接続方法	21
・AC電源の取り出し方	22
・DC電源の取り出し方	23
・発電機の接地	23
点検・整備の仕方	24～27
・定期点検表	24
・エンジンオイルの交換	24
・点火プラグの点検と清掃	25
・燃料タンクストレーナーの清掃	25
・エアクリーナエレメントの清掃	26～27
一時保管・長期保管	28
・一時保管の場合	28
・長期保管の場合	28
不具合時の対応	29
仕様諸元	30
配線図	31
保証期間およびお問い合わせ	32
保証書	33

# 安全にお使いいただくために

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し、正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

## ⚠ 危険

### ● 燃料補給時など燃料取扱時には、火気厳禁

タバコを吸ったり、炎や火花などの火気を近づけないでください。燃料はエンジンを止めてから補給してください。燃料への引火や火災の原因となります。

### ⓧ 本機付近に障害物や危険物、燃えやすい物を置かない

建物およびその他の設備から1m以上離して設置してください。火災や故障の原因となります。

### ⓧ 燃料をこぼさない

燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。拭き取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

### ⓧ 車内、テント内、倉庫など室内および換気の悪い場所では運転しない

エンジンの排気ガスには有害な物質が含まれているため、ガス中毒を起こす原因となります。

### ⓧ 傾斜地で使用しない

平坦・水平で硬い場所で使用してください。また、運搬時は燃料を抜いてください。燃料タンクキャップやキャブレターから燃料がこぼれ、火災の原因となります。

### ⓧ 本機の周りにガソリン、または危険物や燃えやすい物を近づけない

本機から出る排気ガスは熱くなります。本機や本機に接続された電気機器に損傷を起こすだけでなく、思わぬ事故を起こす原因となります。

### ⓧ 電力会社からの電気配線には絶対接続しない

本機や接続の電気機器を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因になります。

### ⓧ 雨の中や水のかかる場所では使用しない

雨や水で濡れた発電機や接続の電気機器を使用したり、また濡れた手で操作すると感電するおそれがあり危険です。

# 安全にお使いいただくために

## ⚠ 危険

### 🚫 本機を分解、修理、改造しない

取扱説明書に記載されている以外の分解や修理・改造は絶対に行わないでください。異常動作してけがをする、また本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。

### ❗ エンジンを始動させる前に必ず運転前点検を行う

人身傷害や機械の破損を防止することができます。手や足をはさんだり、思わぬ事故が起きる原因となります。

### ❗ 長期保管前には燃料タンクやキャブレター内の燃料を抜き取り、本機を火気や湿気、凍結のおそれのない場所に保管する

抜き取った燃料は火災や爆発の原因となりますので、適切に処理してください。

### ❗ 点検や清掃時は必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようエンジンスイッチをOFFの位置にし、点火プラグキャップを取り外す

エンジン停止直後のエンジン本体や排気口などは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

## ⚠ 警告

### ❗ 熱くなっている排気口やエンジン各部をさわらない

やけどの原因となります。

### 🚫 本体に直接砂ぼこり、粉じん、煤煙などがかかる場所では使用しない

エンジン部品の早期摩耗の原因となります。始動時や運転中は、高圧コードや点火プラグ、

点火プラグキャップに触れない感電の原因となります。

### 🚫 エンジン部や排気口部が十分に冷えるまで、本機にカバーを掛けない

火災の原因となります。

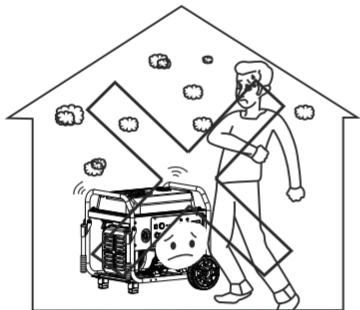
### ❗ 使用中に音、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止する取り外す

お買い上げ販売店またはサービス店にお申しつけください。燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石けんと水で直ちに洗い、衣類は取り替える燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、燃料が目に入ったりした場合には、直ちに医師の診察を受けてください。

### ❗ 運搬、保管、運転時のいずれも本機が落下、横倒、破損などしないよう水平を保つ

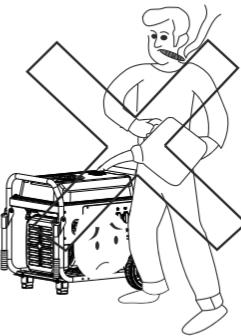
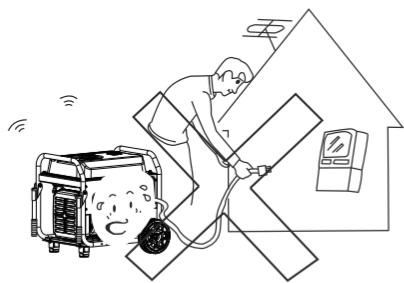
エンジンが故障したり、残っているガソリンがあふれたりする場合があります。特に運搬時には転倒しないようロープなどでしっかりと固定してください。

# 安全にお使いいただくために



室内では絶対に使用しないでください。

雨の中や水のかかる場所では使用しない。



起動前、電気製品を接続しないでください。

給油中はタバコやマッチなどの火気を近づけないでください。

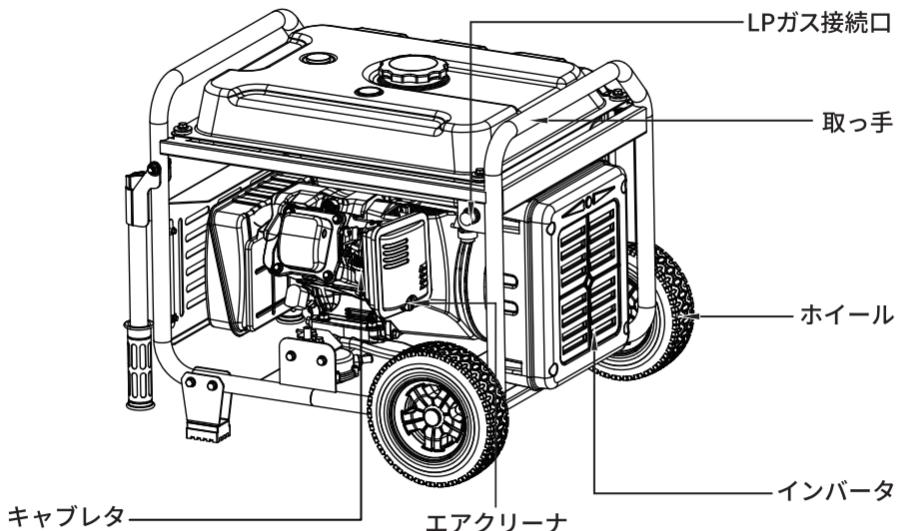
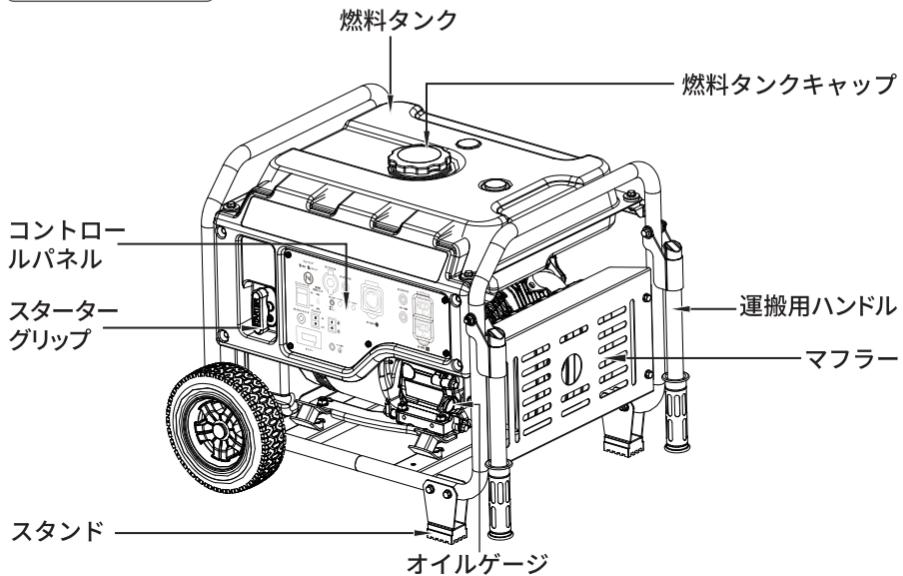


給油中は燃料をこぼさない。

燃料の給油は必ずエンジンを停止し、エンジンが十分冷えてから行ってください。

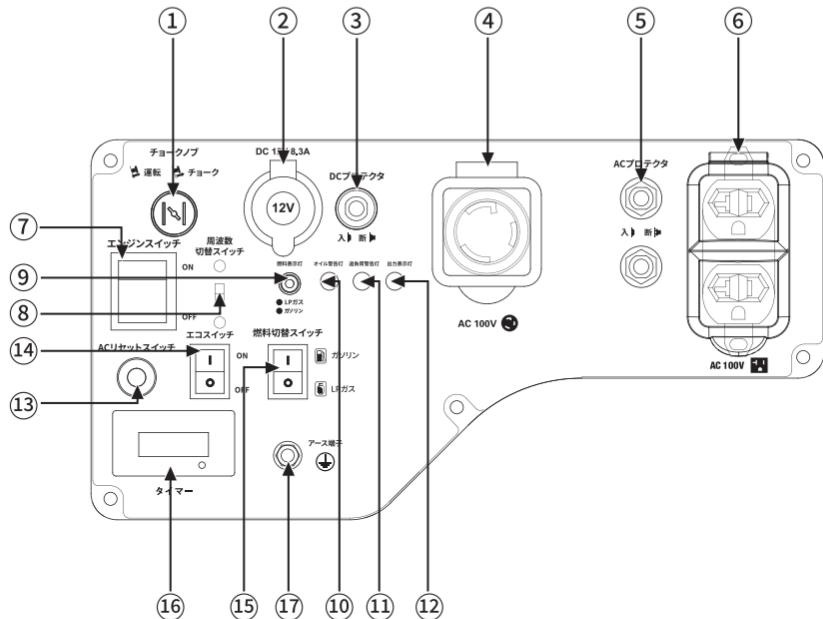
# 各部の名称と取り扱い

## 各部の名称



# 各部の名称と取り扱い

## コントロールパネル部



①チョークノブ	②DCシガーソケット 12V/8.3A	③DCプロテクタ
④AC出力コンセント100V/30A	⑤ACプロテクタ	⑥AC出力コンセント100V/20A
⑦エンジンスイッチ	⑧周波数切替スイッチ	⑨燃料表示灯
⑩オイル警告灯	⑪過負荷警告灯	⑫出力表示灯
⑬ACリセットスイッチ	⑭エコスイッチ	⑮燃料切替スイッチ
⑯タイマー	⑰アース端子	

# 各部の名称と取り扱い

## 各部の取り扱い

### チョークノブ

■ 運転 ■ チョーク



DC 12V 8.3A



### DCプロテクタ



入 ■ 断 ■



AC 100V

### ACプロテクタ



### 1. チョークノブ

エンジンに入る空気量を調整し、エンジンを始動させる際に使用します。

- ・引き抜き(チョーク):エンジンが冷えている状態からエンジンをかけるときの位置です。リコイルスタートアーリップを引き、エンジンがかかりしばらくしたら、チョークノブを押し込み、「運転」の位置にしてください。
- ・押し込み(運転):エンジンが温まっている状態(再始動、夏季など)からエンジンをかけるときの位置です。

### 2. DCシガーソケット12V/8.3A

シガーソケットから車バッテリー、車載冷蔵庫などの直流12Vの車載用電気機器に給電できます。

### 3. DCプロテクタ

DC出力ポートの温度がDCプロテクタ(過熱保護装置)に設定された温度を超えた時にDCプロテクタボタンが飛び出して“断”になり、電気が取出せなくなります。接続配線に異常がないか、また電気の取出し過ぎがないか確認してからDCプロテクタを“入”にします。

### 4. AC出力コンセント100V/30A

このコンセントに流せるアンペア数は30Aとなります。

消費電力が2000W~3000Wの電気機器に給電した場合、このコンセントを使ってください。また、NEMA規格 L6-30Pに準拠した引掛プラグ(別売部品)を使用してください。参考プラグ:

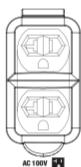
- ・アメリカン電機(株)製 3322N-L6/3322R-L6(株)明工社製 MH7173W/MH7173B

### 5.ACプロテクタ

AC出力コンセントの温度がACプロテクタ(過熱保護装置)に設定された温度を超えた時にACプロテクタボタンが飛び出して“断”になり、電気が取出せなくなります。接続配線に異常がないか、また電気の取出し過ぎがないか確認してからACプロテクタを“入”にします。

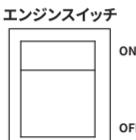
# 各部の名称と取り扱い

## 各部の取り扱い



### 6. AC出力コンセント100V/20A

このコンセントに流せるアンペア数は20Aまでとなります。このコンセントから普通の電気機器に給電可能です。電気機器の消費電力の合計が2000Wを超えないようにしてください。

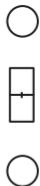


### 7. エンジンスイッチ

**ON:**本機の始動、運転時の位置です。

**OFF:**本機の停止や保管時、運搬時の位置です。

### 周波数切替スイッチ



### 8. 周波数切替スイッチ

周波数の切り替え(50Hz/60Hz)を行うスイッチです。エンジンを始動する前に、接続する電気機器に合わせて周波数を切り替えてください。エンジン運転中に周波数を切り替えることができません。



- LPガス
- ガソリン

### 9. 燃料表示灯

ガソリンを使用すると燃料表示灯が青く点灯し、LPガスを使用すると緑色に点灯します。

オイル警告灯 過負荷警告灯 出力表示灯



### 10. オイル警告灯(赤)

本機にはオイルが少ない場合に自動的にエンジンが停止するオイルアラート機構が内蔵されています。エンジンオイルが不足し焼付が起こる前にこの機構が働き、エンジンを停止させオイル警告灯が点灯します。その際、エンジンオイルを規定量まで給油して、エンジンを再始動してください。

# 各部の名称と取り扱い

## 各部の取り扱い

### 11. 過負荷警告灯(赤)

発電中に使用電気機器に異常があった場合や、過負荷のとき出力表示灯が消え過負荷警告灯が点灯し、電気が取出せなくなります。この時点でACプロテクタが作動し、発電機と接続された電気機器を保護するために発電を停止します。出力表示灯(緑)が消え、過負荷警告灯(赤)が点灯しますが、エンジンの運転は停止しません。

※注意:過負荷警告ランプが点灯および出力表示ランプが消灯し、電気が取り出せなくなったとき:

- ・本機から使用している電気機器を取り外してください。
  - ・電気の取り出しすぎがないか: 使用する電気機器は必ず定格出力内で使用してください。
  - ・冷却空気の吸入口でゴミや異物の吸い込み、詰まりが無いよう、注意・点検をしてください。関連するコントロールエレメントに異常が無いか確認してください。
  - ・点検完了後、エンジンを再始動してください。
- ※注意:コンプレッサー、ポンプもしくは冷蔵庫のような大きな起動電流が必要なデバイスにご使用する場合、最初は過負荷警告ランプが数秒間点灯する可能性がありますが、これは前述の故障ではありません。

オイル警告灯 過負荷警告灯 出力表示灯



### 12. 出力表示灯(緑)

発電が始まると点灯します。インバーターが使用可能であることを示します。

オイル警告灯 過負荷警告灯 出力表示灯

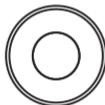


### 13. ACリセットスイッチ

過負荷警告灯が点灯および出力表示灯が消灯し、電気が取り出せなくなったとき、このボタンを押してリセットすることで、出力表示ランプが点灯し電気の供給が再開されます。このボタンを押す前に下記を確認してください。

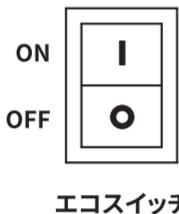
- ・本機から使用している電気機器を取り外してください。
- ・電気の取り出しすぎがないか: 使用する電気機器は必ず定格出力内で使用してください。

ACリセットスイッチ



# 各部の名称と取り扱い

## 各部の取り扱い



燃料切替スイッチ



### 14. エコスイッチ

#### ・ON

エコモードを使用します。電気機器を使用すると自動的にエンジンは電気の使用量に応じたエンジン回転数となり、電気機器を使用しないときは自動的に低速運転になります。燃料消費と騒音を減らします。

#### ・OFF

エコモードを使用しません、負荷が接続されているかどうかにかかわらず、エンジンは定格回転数で運転されます。

※コンプレッサー、ポンプもしくは冷蔵庫のような大きな起動電流が必要なデバイスにご使用する場合または負荷が50%を超える場合は、必ずエコスイッチをOFFにしてください。

### 15. 燃料切替スイッチ

ガソリンとLPGの切替を行うスイッチです。エンジンを始動する前に使用する燃料によって切り替えてください。エンジン運転中に切り替えることができません。

タイマー

### 16. タイマー

エンジンの稼働した累積時間を積算する搭載型アワーメーターです。

エンジン稼働の累積運転時間を表示します。



アース端子

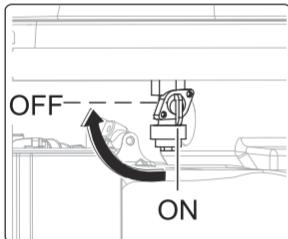


### 17. アース端子

感電防止のアース線を取り付ける端子です。発電機に接続する電気機器がアース付きプラグの場合は、本機も必ず接地(アース)してください。

# 各部の名称と取り扱い

## 各部の取り扱い



### 18. 燃料コック

燃料の流れを制御し、エンジンの始動、停止を行います。

OFF(閉)のままだとガソリンが流れません、エンジンが始動できないです。

- ON(開)：エンジンをかけるときの位置です。
  - OFF(閉)：初期状態です。停止および保管、運搬時の位置です。
- エンジン停止後は必ず燃料コックをOFFにしてください。

# 運転前の点検

エンジンオイルは出荷時には入っていませんので、必ず給油してください。なお、工場で試運転をしているため、若干オイルが内部に残っている場合があります。ご了承ください。

## エンジンオイルの給油

1.オイルプラグを外してオイルジョッキ(ロート)をオイル給油口に差し込み、本機を水平にしてエンジンオイルを規定量給油します。

2.給油したらオイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。

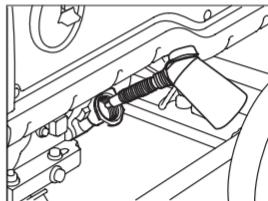
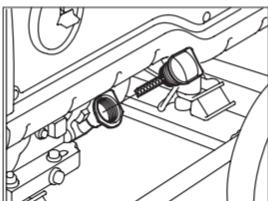
### 推奨オイル：

4サイクル用エンジンオイル

SAE10W-30もしくは

10W-40API分類SE級以上

エンジンオイル規定量：0.6L



## エンジンオイルの量の確認

1.オイルゲージを引き抜き、一度ウエスで拭き取ります。

2.オイルゲージを差し込んで(注入口からオイルゲージをねじ込まないで)から引き抜き、エンジンオイルが付着している部分の範囲で残量を確認します。

3.オイルゲージにはレベル線がついており、エンジンオイルがレベル線の上限付近まで付着していれば適正量です。

### ⚠ 注意

	<ul style="list-style-type: none"><li>・エンジンオイルを給油しない場合、始動しないでください。オイルを入れ過ぎる場合は白煙が出て、アイドリングが不安定になることがあります。オイルが足りない場合は始動した後にオイル警告ランプが点灯し、直ぐに止まることがあります。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>・工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていませんので、購入後、最初に使用するときはエンジンオイルを規定量給油してください。</li><li>・オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れことがあります。</li><li>・初回のみ、1ヶ月後または20時間運転後にオイル交換を行ってください。</li></ul>

※一般的な使用において推奨されるオイルの種類は10W-30の自動車用オイルを推奨します。ただし、「推奨エンジンオイルタイプ」の表に記載されている従来型オイルを使用しても、エンジンの慣らし運転期間の最初の5時間を含め、一般的な使用には差し支えありません。極端な温度下で発電機を運転する場合、下記の表を参照してください。

# 運転前の点検

推奨エンジンオイルの種類							
10W-30							
5W-30			10W-40				
5W-30 フルシンセティック							
°C	-20	0	20	40	60	80	100 120
°F	-28.9	-17.8	-6.7	4.4	15.6	26.7	37.8 48.9
環境温度							

## 本機周辺の点検

- ・燃えやすい物(特にガソリンやエンジンオイルなど)や危険物は置いていませんか。
- ・周囲に火の気はありませんか。
- ・風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
- ・使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり、やわらかい場所で使用していませんか。やむを得ず使用する場合は、本機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- ・傾斜地で使用していませんか。
- ・使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり、やわらかい場所で使用していませんか。やむを得ず使用する場合は、本機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- ・建物および他の設置物から1m以上離れていますか。また、排気口および吸気口は風通しの良い、広い場所に向けてありますか。

# 発電機のかけ方(ガソリンの場合)

## 燃料の給油

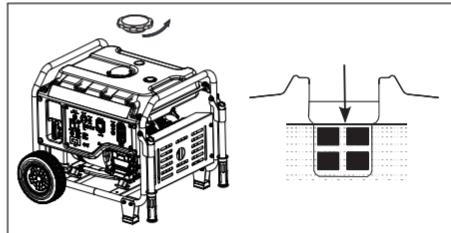
燃料タンクキャップを外し、燃料を給油します。作業は本機を水平にして行ってください。2回目以降の使用時:中にガソリンが残っていても劣化している恐れがあります。30日に1回、新しいガソリンに交換してください。

使用燃料:

無鉛ガソリン(自動車用レギュラーガソリン)

燃料タンク容量:

14.5L(赤レベルまで)



## ⚠ 警告

<b>禁止</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また、金属部に手を触れるなどして、身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。</li><li>エンジンが熱い時は給油しないでください。エンジン停止直後などエンジンが熱い時に給油すると引火のおそれがあります。</li></ul>
<b>指示</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。</li><li>燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹼と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。</li><li>必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。</li><li>給油中に、燃料をこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。</li><li>給油後は、燃料タンクキャップを確実に締付けてください。</li></ul>

# 発電機のかけ方(ガソリンの場合)

## ⚠ 注意

 <b>禁止</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・燃料は規定量以上(ストレーナの赤レベル以上)、給油しないでください。燃料が漏れるおそれがあります。</li><li>・軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤は使用しないでください。エンジンなどに悪影響を与えます。</li><li>・古い燃料は使用しないでください。携行缶などで長期保管したガソリンは、エンジン始動不良や故障の原因となります。</li></ul>
 <b>指示</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ガソリンは自然劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ替えてください。</li><li>・燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。また、こぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。</li><li>・ガソリンを一時的に保管・運搬するときは、消防法に適合した携行缶を使用してください。特にペットボトルに保管すると、ガソリン内にペットボトルの成分が溶け出し、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。</li></ul>

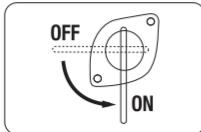
# 発電機のかけ方(ガソリンの場合)

## エンジンの起動

1. 燃料切替スイッチを「ガソリン」(上位)の位置にします。

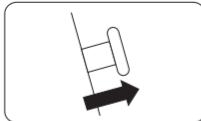


2. 燃料コックを「ON」の位置にします。

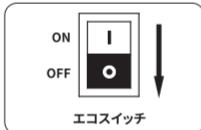


3. チョークノブを引き抜きます。

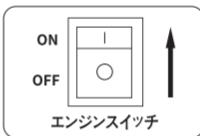
注意:エンジンが温まっている状態の場合、チョークレバーを引き抜く必要はありません。



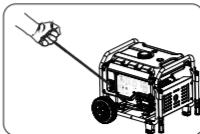
4. エコスイッチを「OFF」の位置にします。



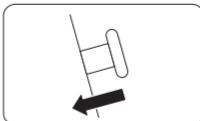
5. エンジンスイッチを「ON」の位置にします。



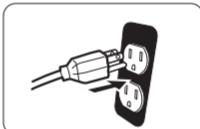
6. リコイルスターターグリップを軽く引き出し、重くなった状態から勢いよく引き、エンジンを起動させます。リコイルスターターグリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。



7. 起動後、エンジンの回転が安定したら、チョークノブを押し込みます。約3~5分間、無負荷で暖機運転を行ってください。



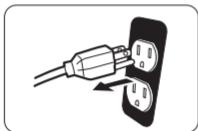
8. 電気器具のプラグをコンセントに接続します。



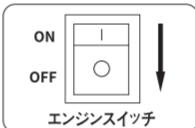
# 発電機のかけ方(ガソリンの場合)

## エンジンの停止

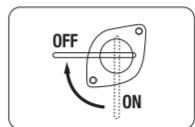
1. 電気器具のスイッチをOFFにします。電気器具のプラグをコンセントから抜きます。電気機器を接続またはオンにした状態で発電機を始動または停止しないでください。予期せぬ事故や感電の原因となります。



2. エンジンスイッチを「OFF」にしてエンジンを停止します。



3. 燃料コックをOFF(閉)にします。



## ⚠ 警告



- ・換気や風通しが不充分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。有害な一酸化炭素がたまって中毒を引き起こす原因となります。
- ・エンジンを始動する前に電気機器を接続しないでください。

## ⚠ 注意



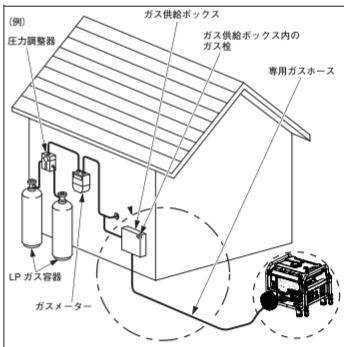
### 指示

- ・リコイルスターターグリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
- ・リコイルスターターハンドルを数回引いてエンジンが始動しない時は、20分間ほど発電機を換気性の良い場所に置いて、チョークノブを押し込みて、再度起動を試みてください。

# 発電機のかけ方 (LPガスの場合)

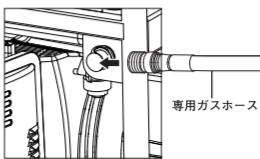
## ガス供給ボックスとの接続

本製品は専用供給ボックス（屋外に設置されたボックス型ガス栓）を接続して使用することができます。ガス供給ボックスは、LPガス配管との接続に液化石油ガス設備士による施工が必要となります。具体的にはLPガス業者にお問い合わせください。



## 接続手順

1. ガス供給ボックスから専用ガスホースを取出します。
2. 専用ガスホースを発電機のガスホース接続口に差込みます。



## ⚠ 注意

	<p>専用供給ボックスの設置は、LPガス事業者（有資格者）が行います。お客様自身で行わないでください。 熱部に専用ガスホースを近づけないでください。専用ガスホースの劣化が早まり、亀裂が入るなどして重大な事故につながるおそれがあります。</p>
	<p>専用ガスホースは、正しく取扱ってください。正しく取扱わないと、ガス漏れの可能性があり、ガス漏れ事故の原因になります。 専用供給ボックスは、LPガス事業者の設置部品です。「ガス供給ボックス」の取扱説明書に従ってください。</p>

## ⚠ 警告

	<p>LPガスおよびLPガス容器の取扱いに関しては、各種法律や規制があります。「高圧ガス保安法」、「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（液石法）」、「消防法」等を遵守してください。詳しくは最寄りのガス販売店にご相談ください。 LPガスが漏れているとき（ガス臭いなどガス漏れを感じたとき）は、直ちにエンジンを停止し、次の処置を行ってください。 ①専用供給ボックス内のガス栓を閉（OFF）にする。 ②専用ガスホースを本機から取外す。 ③LPガス事業者に連絡する。</p>
--	--

# 発電機のかけ方 (LPガスの場合)

## LPガス容器との接続

専用供給ボックス以外、LPガス用単段式調整器でLPガス容器と接続することもできます。

LPガス容器との接続は下記の3つのパート(別売り)が必要です。

①LPガス用単段式調整器。参考製品：桂精機製作所 SKL-5AH

②検圧プラグ。参考製品：光陽産業社製GKP-1

③専用ガスホース(長さ2m以上)。参考製品：リンナイ(Rinnai)社製RGH-20K

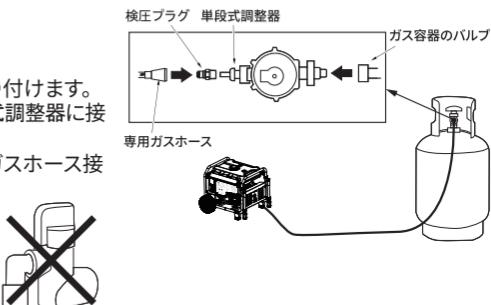
LPガス容器の接続は、有資格者が行う必要がある場合があります。詳しくは最寄りのガス販売店にご相談ください。

## 接続手順

1. 検圧プラグを単段式調整器に取り付けます。
2. 単段式調整器をLPガス容器のバルブに取り付けます。
3. 専用ガスホースのガス栓側ソケットを単段式調整器に接続します。
4. 専用ガスホースの機器側ソケットを発電機ガスホース接続口に差込みます。

ご注意：

右図のヒューズガス栓は使用できません。



## △ 注意



禁止

- 接続パーツは、分解・改造等をしないでください。正しく取扱わないと、ガス漏れの可能性があります。
- 専用ガスホース以外のホースを使用しないでください。



指示

- LPガスは爆発性がありますので、取扱いには十分注意してください。
- 専用ガスコードの取付け、取外しはエンジンを停止した状態で、換気の良い場所で行ってください。

## △ 警告



禁止

- LPガスおよびLPガス容器の取扱いに関しては、各種法律や規制があります。「高圧ガス保安法」、「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律(液石法)」、「消防法」等を遵守してください。詳しくは最寄りのガス販売店にご相談ください。
- 使用中は本機をLPガス容器から遠く離してください。また、熱い状態の本機を、LPガス容器に近づけないでください。LPガス容器の爆発など死傷事故を引き起こすおそれがあります。

# 発電機のかけ方(LPガスの場合)

## エンジンの起動

1. 専用供給ボックス内のガス栓またはLPガス容器のバルブを開け、ガス漏れがないか確認します。

2. 燃料切替スイッチを「LPガス」(下位)の位置にします。

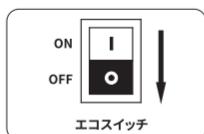


3. チョークノブを引き抜きます。

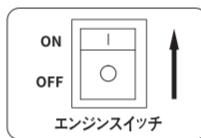
注意:エンジンが温まっている状態の場合、チョークレバーを引き抜く必要はありません。



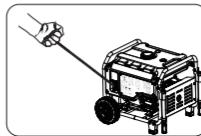
4. エコスイッチを「OFF」の位置にします。



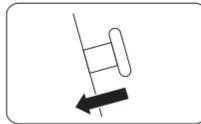
5. エンジンスイッチを「ON」の位置にします。



6. リコイルスターターグリップを軽く引き出し、重くなった状態から勢いよく引き エンジンを起動させます。リコイルスターターグリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。



7. 起動後、エンジンの回転が安定したら、チョークノブを押し込みます。約3~5分間、無負荷で暖機運転を行ってください。



8. 電気器具のプラグをコンセントに接続します。



# 発電機のかけ方 (LPガスの場合)

## エンジンの停止

- 1.電気器具のスイッチをOFFにします。電気器具のプラグをコンセントから抜きます。
- 2.マルチスイッチを[停止]の位置にしてエンジンを停止します。
- 3.専用供給ボックス内のガス栓またはLPガス容器のバルブを閉めてください。
- 4.ガスホース接続口から専用ガスホースを取り外します。

### ⚠ 警告



禁止

- ・換気や風通しが不充分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。有害な一酸化炭素がたまつて中毒を引き起こす原因となります。
- ・エンジンを始動する前に電気機器を接続しないでください。
- ・LPガスが漏れたままエンジンをかけないでください。

### ⚠ 警告



指示

- ・リコイルスタートハンドルを数回引いてエンジンが始動しない時は、マルチスイッチを[運転]の位置にし、再度起動を試みてください。

# 発電機の使用方

## 使用環境

- ・適用温度:-5°C～40°C
- ・適用湿度:95%以下
- ・適用標高:1500m以下の地域(標高1000mを越えると大気圧が低くなり空気密度が薄くなるため、発電出力が低下することがあります。)

## 標準大気条件

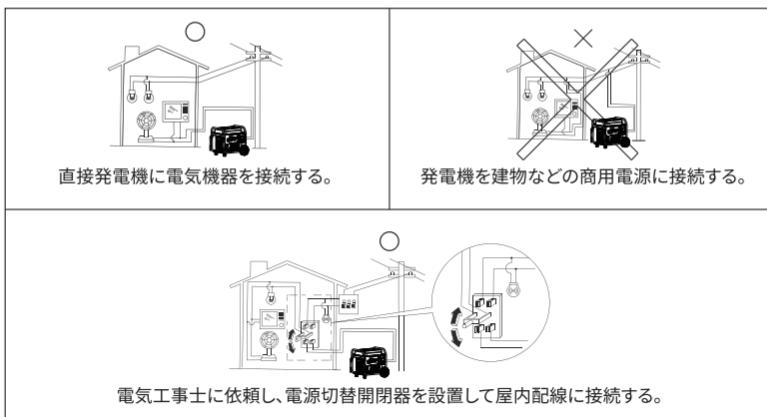
- ・周囲温度Tr:298 k(25°C)
- ・空気相対湿度Fr:30%
- ・絶対大気圧Pr:100 kPa

## 実際の環境条件が使用環境条件と一致しない場合:

- ・周囲温度が5°C上昇するごとに、発電機の出力が約2%低下します。
- ・空気相対湿度が30%増加するごとに、発電機の出力が約1.5%低下します。
- ・標高が300 m上昇するごとに、発電機の出力が約4.5%低下します。

## 配線接続方法

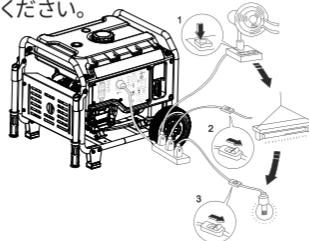
- ・発電機をバックアップ電源として家庭用電源に接続する場合は、電気工事士などの有資格者にご依頼ください。
- ・発電機に負荷を接続した後、電気接続が安全で信頼できるものであるかどうかを注意深く確認してください。不適切な電気接続は、発電機の損傷の損傷、焼損、火災の原因となります。
- ・発電機を建物などの商用電源には絶対に接続しないようにしてください。
- ・延長線を使用する場合は、その長さを超えないでください。
  - ①60 m断面積は1.5 mm<sup>2</sup>です。
  - ②100 m断面積は2.5 mm<sup>2</sup>です。
- ・外観は丈夫で弾力性のあるゴムカバー(IEC25)などで保護する延長ケーブルを使用してください。



# 発電機の使用方

## AC電源の取り出し方

- 周波数切換えスイッチを接続する電気機器の周波数に合わせます。
- 発電機に接続する電気機器を大地にアースした場合は、発電機の本体も必ずアースしてください。
- 「発電機のかけかた」に従ってエンジンを始動します。数秒後、出力表示灯（緑）が点灯していることを確認します。
- 接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認し、ACコンセントへ電気機器のプラグを確実に差込みます。
- 電気機器のスイッチを入れます。正常運転（定格負荷）でご使用の場合は、出力表示ランプ（緑）が点灯し続けます。
- 過負荷運転や使用電気機器が異常を起こした場合は、出力表示灯（緑）が消え、過負荷警告ランプ（赤）が点灯し続け、電気が取出せなくなります。  
この場合、電気機器のプラグを取り外してください。そして、ACリセットスイッチを押してリセットすることで、出力表示ランプ（緑）が点灯し電気の供給が再開されます。
- コンプレッサー、半自動溶接機や水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気機器を使用する場合はエコスイッチを「OFF」にしてください。



### ⚠ 警告



電気器具の合計負荷（交流、直流の合計）が発電機の取り出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。



- 発電機に接続する前に、接続するプラグ、コード類に損傷がないか確認して下さい。
- 接続する電気器具の状態が良好であることを確認して下さい。
- 精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ（原動機雜音）の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ（原動機雜音）に影響されないことを確認してください。
- 医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院などに確認の上ご使用ください。
- 電気工具類・汎用モーター類の一部には、取り出し可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないことがあります。この場合は電気器具メーカーにご相談ください。
- コンプレッサーや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気器具を使用したとき、過負荷警告ランプが数秒間点灯する場合がありますが、これは故障ではありません。
- エンジン回転数を上げる前に、エコスイッチを「OFF」に切り替える必要があります。複数の負荷または電気設備で電力を供給する場合は、各電気設備の大きさに応じて大きいものから小さいものまで始めなければならない。

# 発電機の使用方

## ⚠ 警告



・電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。火災や人身事故、本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。

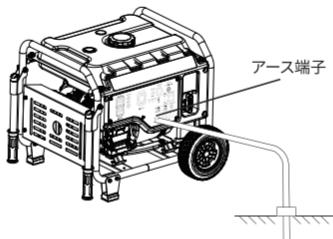
## DC電源の取り出し方

- 1.「発電機のかけ方」に従ってエンジンを始動します。
- 2.接続する12V車載用電気機器のスイッチが切れていることを確認し、シガーソケットへ車載用電気機器のプラグを確実に差込みます。
- 3.車載用電気機器のスイッチを入れます。正常運転(定格負荷以内)でご使用の場合は、出力表示ランプ(緑)が点灯し続けます。

## 発電機の接地

感電や不適切な電気使用による発電機の損傷を防ぐため、絶縁シース付きの良導体で発電機を接地することを推奨します。

- ①アース線は十分な電気容量を持つものをご使用ください。
- ②アース線の一端を発電機のアース端子に接続します。
- ③接地体(直径5~10mmの鉄の棒)を200mm下の大地に挿入し、導線で導出します。
- ④アース線のもう一方の端を、アース本体のリード線に接続します。



# 点検・整備の仕方

## 定期点検表

対象部品	点検項目	始業点検	初回の1ヶ月後 または 20時間 運転後	3ヶ月毎 または 50時間 運転毎	6ヶ月毎 または 100時間 運転毎	12ヶ月毎 または 200時間 運転毎
エンジンオイル	・量の点検	●				
	・交換		●※1		●	
燃料	・量、漏れの点検	●				
エアクリーナー	・損傷、劣化の目視と 指触による点検	●				
	・清掃			●※2		
点火プラグ	・点検と清掃				●	
	・交換					●
燃料タンクストレーナー	・汚れ、詰まりの目視点 検および清掃				●	
マフラー／ワイヤネット	・清掃				●	
外装	・取り付けボルトのゆる み確認			●		

※1 初回のみ、1ヶ月後または20時間運転後にオイル交換を行ってください。

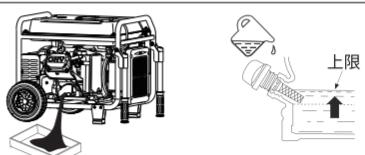
※2 ほこりの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに点検を行ってください。

## エンジンオイルの交換

- エンジンを始動し、2~3分暖気運転をしてから停止します。エンジンオイルが排出しやすくなります。
- 排出するエンジンオイルを受け取る容器を用意します。
- オイルプラグを外し、付属のエンジンオイル排出用ホースを取り付けます。
- オイルを抜いた後、オイルドレンボルトを確実に締め付けます。
- 発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。
- 付属のエンジンオイル排出用ホースを外し、オイルジョッキをオイル給油口に差し込みます。
- 本機を水平にしてエンジンオイルを規定量給油します。エンジンオイルがレベル線の上限付近まで付着していれば適正量です。
- 給油したらオイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。

**推奨オイル:**4サイクル用エンジンオイル  
SAE10W-30もしくは10W-40API分類SE級  
以上

**エンジンオイル規定量:**0.6L



# 点検・整備の仕方

## 点火プラグの点検と清掃

1. プラグレンチハンドル、プラグレンチで点火プラグを取り外します。

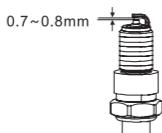


2. スパークプラグの焼け具合を点検します。電極付近は通常キツネ色に焼けますが、黒くすぶついていたり白く焼けていたときはパーツクリーナーまたはワイヤーブラシで汚れ(カーボン)を落とします。

3. 電極のすき間を確認し、下記寸法になつてない場合は調整します。中心電極をこじらないでください。破損する恐れがあります。

指定点火プラグ: F6RTC

電極のすき間: 0.7~0.8mm



4. スパークプラグのネジ山に焼き付き防止剤を塗ります。

5. 取り付けはまず手で一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けます。点火プラグキャップを点火プラグに確実に取付けます。

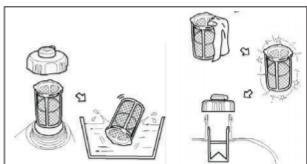
### △ 注意



・やけどをしないよう、作業はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン停止直後のエンジン本体や排気口、点火プラグなどは非常に熱くなっています。

## 燃料タンクストレーナーの清掃

1. エンジンスイッチを「OFF」の位置にしてエンジンを停止します。
2. 燃料タンクキャップおよびストレーナーを取り外します。
3. ガソリンを使ってストレーナーを洗浄します。
4. ストレーナーをふいて燃料タンクに挿入します。
5. 燃料タンクキャップを取り付けます。



# 点検・整備の仕方

## ⚠ 警告

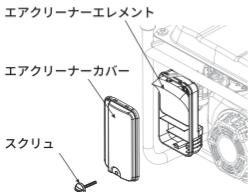


・ガソリンは引火しやすいので、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。火災の原因になります。

## エアクリーナエレメントの清掃

1.スクリュをゆるめて、エアクリーカバーを取り外します。

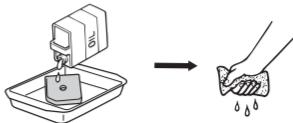
2.エレメント(空気ろ過部)を取り外します。



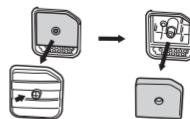
3.家庭用の洗剤と温水の溶剤でスポンジを洗浄し洗い流すか不燃性もしくは低引火点の溶剤で洗浄し、完全に乾燥させてください。ボロボロ崩れたり、汚れがひどいときは新しいものに交換してください。



4.エレメントをエンジンオイルにひたし、押しつぶすようにしぼります。オイルが垂れない程度に余分なオイルを取り除いてください。



5.エレメントをエアクリーナ本体にはめ込みます。エアクリーナカバーを元の位置に戻し、スクリュを締め付けます。



# 点検・整備の仕方

## ⚠ 警告



禁止

- ・洗い油は引火しやすいので、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。火災の原因になります。

## ⚠ 注意



禁止

- ・エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。
- ・エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。



指示

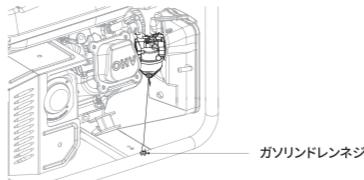
- ・エアクリーナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので、ほこりの多い場所で使用した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

# 一時保管・長期保管

使用後または定期運転後、次回の使用が3ヶ月以降になる場合は「一時保管」を、それ以上長期に渡って使用しない場合は「長期保管」を行ってください。これらを行わないと、故障の原因となります。

## 一時保管の場合

- 1.燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販の手動式ガソリン用ポンプを使用して燃料を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。
- 2.燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。
- 3.燃料タンク内のガソリンを抜いた後、発電機を起動します。(14ページ参照)
- 4.無負荷運転(電気機器は接続しない)を行ってます。エンジンが「ガス欠状態」で停止するまで待ちます。燃料タンク内の燃料残量によって「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。
- 5.エンジンが停止しましたら、排出するガソリンを受ける容器を用意します。
- 6.キャブレターのドレンパイプを容器で受け、ドレンネジをドライバーで弛め燃料を抜きます。キャブレター内のガソリンを抜かずに入長期間放置すると、ガソリンが変質しエンジンがかからなくなる場合があります。
- 7.ドレンネジを締め付け、ドレンパイプを元に戻します。



- 8.エンジンスイッチを「OFF」の位置にし、燃料コックを「OFF」の位置にします。
- 9.室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

## 長期保管の場合

- 1.“一時保管”的1～9の作業を行います。
- 2.点火プラグを外し、プラグ孔からエンジンオイルを5～10mL給油します。
- 3.リコイルスターーガーリップを2～3回ゆっくりと引いた後、点火プラグを取り付けます。
- 4.リコイルスターーガーリップを引き、重くなった状態(圧縮状態)にします。
- 5.各部の水、ほこりなどの汚れをきれいに清掃します。
- 6.発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

# 不具合時の対応

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは、取扱いの不慣れや不十分な点検に起因しています。まずは自身で次の点検を行い、その上でなお異常がある場合はむやみに分解しないでお買い上げの販売店にお問い合わせください。

症状	考えられる原因	処置	参照ページ
エンジンが始動しない	ガソリンが入っていない	ガソリンを給油する	13ページ
	キャブレターでガソリンが入っていない		
	オイル警告灯(赤)が点灯している→エンジンオイルが入っていない、量が少ない	エンジンオイルを給油する	11ページ
	LPガスの容量が足りない	LPガスの残量を確認してLPガス容器を交換する	/
	エンジンのかけ方に不足などがある	正しいかけ方を再確認する	15ページ 19ページ
	チョークノブの位置調整する	エンジンが温まっている場合や夏期は「運転」	6ページ
		エンジンが冷えている場合や冬期は「チョーク」	6ページ
	エアクリーナーの汚れ	エアクリーナーの清掃	26ページ
	点火プラグかぶり、汚れ、破損	点検・清掃・交換	25ページ
	本機が傾いている → オイルアラート機構の作動	水平にする	11ページ
エンジンが数分動いた後止まる	問題のある燃料、エンジンオイルによるエンジン不調	正しい燃料・エンジンオイルに入れ替え	11ページ 13ページ
	チョークノブの位置調整	起動後、チョークノブを「運転」の位置に戻す	6ページ
	暖気運転が足りない	暖気運転を行う	14ページ
	複数の電気機器を使用するなど急に大きな電気を取り出した	電気を少しづつ取り出す	8ページ
	点火プラグの劣化	点火プラグの点検・交換	25ページ
マフラーから白煙が出る	キャブレターが詰まっている	キャブレターの清掃	/
	エンジンオイルの入れ過ぎ	エンジンオイルを排出して規定量を注入する	24ページ
	SA級など、指定以外のエンジンオイルを使用	指定のエンジンオイルを使用する	11ページ
電気が取り出せない	過負荷警告灯(赤)が点灯・点滅、出力表示灯が消灯する	過負荷の原因または使用器具の異常を改善する	8ページ
	水中ポンプ、コンプレッサーなど、起動時に大電流が流れる電気機器を使用する	エコモードをOFFにする	9ページ
	シートをかぶせている、または屋内で使用するなどして本機の温度が高くなっている	本機周辺を点検する、または屋外で使用する	12ページ
回路システム	点火プラグには炭素と湿気が付着している	炭素蓄積を除去し、点火プラグを乾かす。	25ページ
	点火システム不良	EENOUR カスタマーサービスに連絡してください。	/

# 仕様諸元

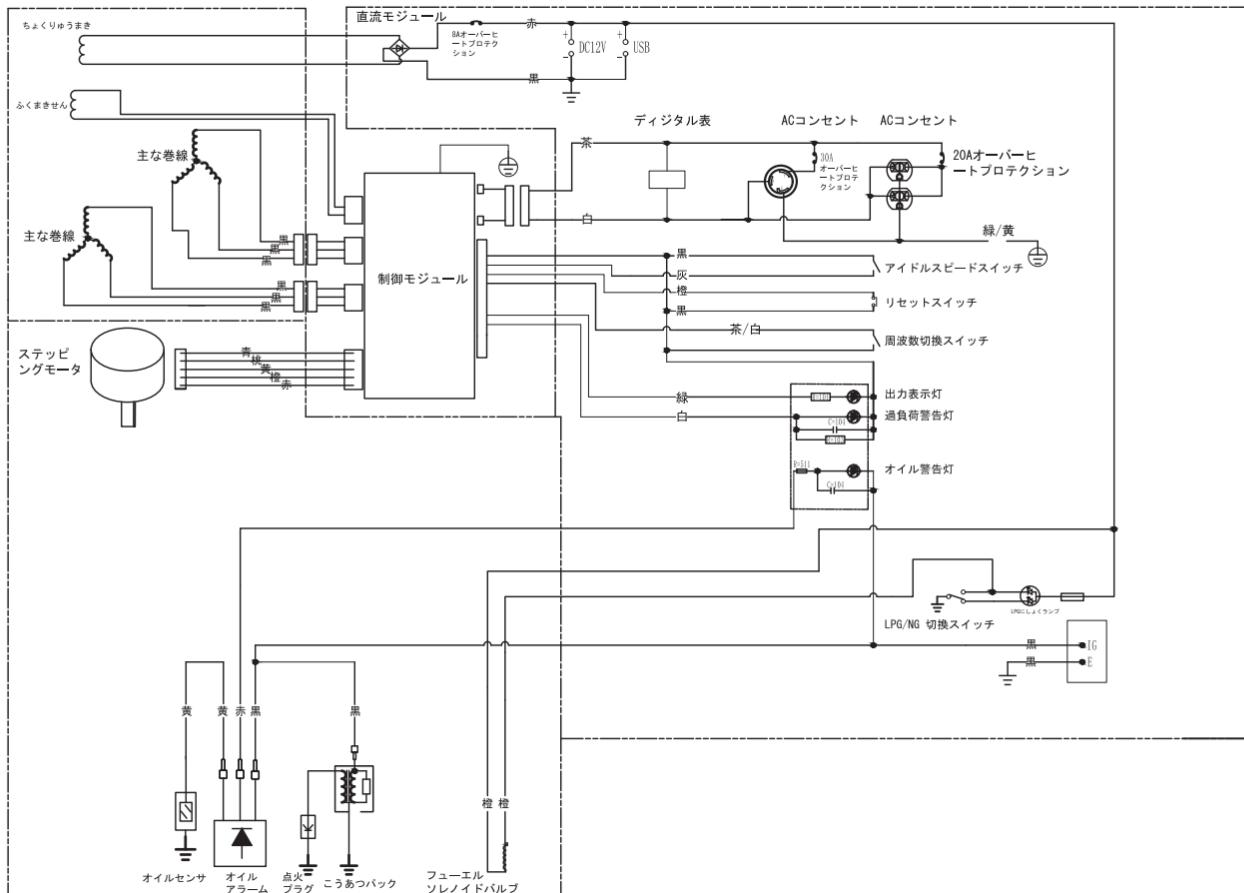
機種	DK4000iODF	
発電部型式	多極界磁回転型	
相数	単相	
力率	1	
交流(AC)	定格出力	3.8kVA (ガソリン) / 3.4kVA (LPガス)
	定格電圧	100V
	定格電流	38A(ガソリン)/34A(LPガス)
	定格周波数(切替式)	50Hz/60Hz
直流(DC)	定格電圧	12V
	定格電流	8.3A
装備	交流過電流保護装置	電子式
	交流過熱保護装置	電子式
エンジン	エンジン種類	空冷4ストロークOHVエンジン
	総排気量	223cc
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン/液化石油ガス
	点火プラグ	F6RTC
	エンジンオイル	4サイクル用エンジンオイル SAE10W-30もしくは10W-40API分類SE級以上
	エンジンオイル規定量	0.6L
燃料タンク容量	14.5L	
連続運転時間(ガソリン)	定格連続運転時:約7h 1/4負荷連続運転時:約27h	
連続運転時間(LPガス)	定格連続運転時:1.11kg/h 1/4負荷連続運転時:0.448kg/h	
騒音レベル(7m)	66dB※2	
始動方式	リコイルスタート式	
使用環境温度	-5°C~40°C	
寸法(全長×全幅×全高)	633*612*526mm	
乾燥重量	36kg	

この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。

※1:エコモードON時

※2:仕様諸元表に表示した騒音値は、エコモードON(作動中)時で、機側7m、四方向の算術平均値です。異なる環境下での騒音はこの数値と変わることがあります。

# 配線図



## 保証期間およびお問い合わせ

- ・本製品の保証期間はお買い上げより一年間となります。
- ・本製品の仕様は予告なしに変更する場合があります。予めご了承ください。
- ・本製品は使用電子部品の製造中止で、生産及び販売終了となる場合があります。予めご了承ください。
- ・お問い合わせの際、お客様へ確実に迅速に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご連絡ください。

①商品名

②ご購入先及びご注文番号

③故障の状況(できるだけ詳しくご説明ください。メールでお問い合わせいただいた場合は不具合症状に関する写真または動画を添付いただけます。)

・ご不明な点や故障に関するご相談は、お買い上げの販売店、または下記営業窓口にお問い合わせください。

### メールアドレス



support@eenour.com

### お電話番号



045-550-7405

受付時間:10:00-13:00、14:30-18:30

(土・日曜、祝祭日・年末年始および当社指定休業日は除く)

# 保証書

本保証書は再発行いたしません。大切に保管してください。

## 保証書

品 名	EENOURインバーター発電機	
品 番	DK4000iODF	
購 入 日	年 月 日	
保証期間	上記ご購入日より1年間（消耗品を除く）	
お 客 様	ご住所	〒
	電 話	( )
	お名前	
-----		
様		

1. 取扱説明書、注意事項などにしたがって正常な使用状態で故障した場合に限ります。
2. 保証期間内に前項に該当する故障が発生した場合に限ります。
3. 消耗品に関しては、保証対象外となります。
4. 保証期間内でも次の場合は、有料修理となります。  
\* 本書のご提示がない場合や、購入日、販売店名の記載がない場合。  
\* 使用上の誤り、他店・個人での修理、分解、改造、調整による故障等。  
\* お買い上げ後の移動、落下、天災地変、異常電圧による故障。
5. 保証書の発行により、ご購入者の法律上の権利を制限するものではありません。

### 免責事項

法律上の請求の原因の種類を問わざいかなる場合においても、本製品の使用または、使用不能から生ずる直接損害、間接損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失等）、特別損害、付随的損害、経済的拡大被害（逸失した利益、ビジネス上の収益、信用あるいは節約すべかりし費用を含む）、他の機器や部品に対するデータの損失または損害、第三者からの賠償請求に基づく損害、身体障害（身体障害に起因する死亡及び怪我を含む）に関して、弊社は一切の責任を負わないものとさせて頂きます。